

# ビール・発泡酒の酒税減税に 関する要望書

平成20年9月

## ビール酒造組合

ホームページ <http://www.brewers.or.jp>

会長代表理事 荻田 伍

会 員 会 社 アサヒビール株式会社

キリンビール株式会社

サッポロビール株式会社

サントリー株式会社

オリオンビール株式会社

## 発泡酒の税制を考える会

ホームページ <http://www.happoshu.com>

会 長 荻田 伍

会 員 会 社 アサヒビール株式会社

キリンビール株式会社

サッポロビール株式会社

サントリー株式会社

オリオンビール株式会社

## 私たちは、ビール酒税の大幅な減税を要望します。

ビールは、現在わが国において、全酒類消費量の約4割を占める低アルコール飲料として広く消費者層に愛飲されています。このようなビールに対し、永年にわたり極めて高率・高額な酒税が課せられてきており、消費者の負担は極めて高いものになっています。

日本におけるビール酒税は、国内の他の酒類にくらべ突出して高く不公平です。さらに、諸外国と比較して極めて高くなっています。(ドイツの15倍、アメリカの11倍)

(ビール酒造組合)

## 私たちは、発泡酒酒税の減税を要望します。

発泡酒は、誕生以来、今日に至るまで製造各社のたゆまぬ企業努力により、品質も向上し、庶民の酒として広く愛飲されていますが、発泡酒の酒税は他の酒類に比べ著しく高率・高額であり、極めて不公平です。

発泡酒は主として家庭で愛飲され、またビールでは難しい多様な商品の開発により、独立したジャンルとして消費者の支持を受けています。

(発泡酒の税制を考える会)

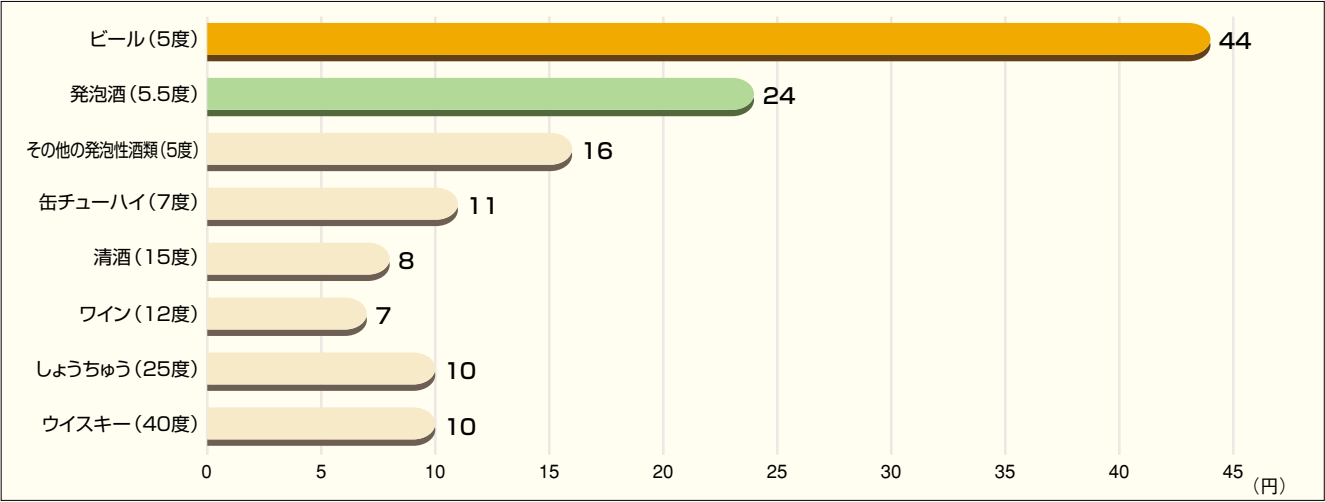
平成18年5月に酒税法の改正が行われました。その内容は税率の見直しに止まらず、酒類の分類および定義の改正にまで及ぶものでした。酒類の分類については「発泡性酒類」、「醸造酒類」、「蒸留酒類」、「混成酒類」の4種類に大括り・簡素化されました。さらに、酒類間の税負担格差の縮小も行われましたが、依然として突出した税負担は解消されませんでした。

酒税の税率

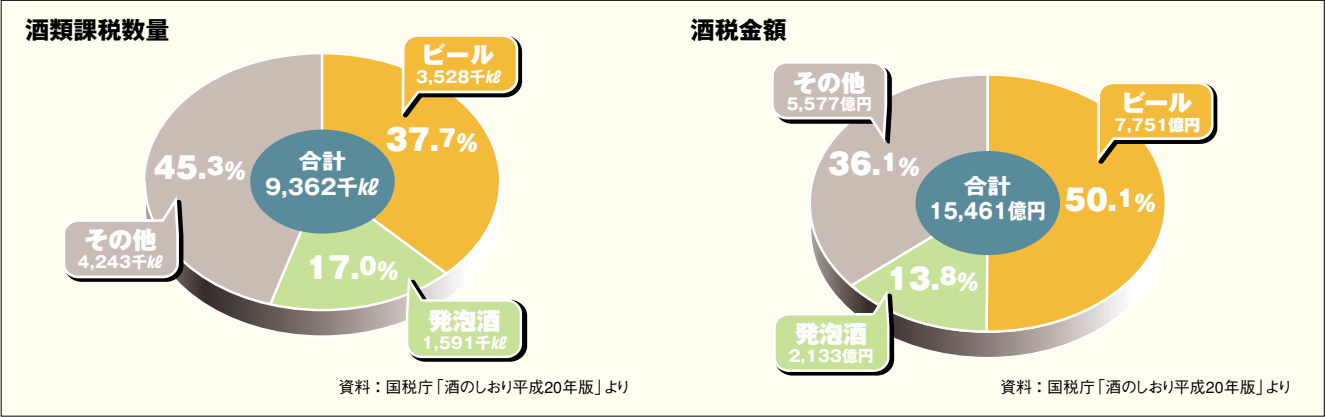
| 区 分                                       | 税率<br>〔1㎏当たり〕 | アルコール分<br>1度当たり加算額 | 区 分               | 税率<br>〔1㎏当たり〕 | アルコール分<br>1度当たり加算額 |
|-------------------------------------------|---------------|--------------------|-------------------|---------------|--------------------|
| 発 泡 性 酒 類                                 | 220,000円      | —                  | 蒸 留 酒 類           | 200,000円(20度) | 10,000円            |
| ビール                                       | 220,000円      | —                  | ウイスキー・ブランデー・スピリッツ | 370,000円(37度) | 10,000円            |
| 発泡酒(麦芽比率50%以上)                            | 220,000円      | —                  | 混 成 酒 類           | 220,000円(20度) | 11,000円            |
| *1 // (麦芽比率25~50%未満)                      | 178,125円      | —                  | 合成清酒              | 100,000円      | —                  |
| *1 // (麦芽比率25%未満)                         | 134,250円      | —                  | みりん・雑酒(みりん類似)     | 20,000円       | —                  |
| *2 その他の発泡性酒類(ホップ等を原料としたもの(一定のものを除く。))を除く。 | 80,000円       | —                  | 甘味果実酒・リキュール       | 120,000円(12度) | 10,000円            |
| 醸 造 酒 類                                   | 140,000円      | —                  | 粉末酒               | 390,000円      | —                  |
| 清酒                                        | 120,000円      | —                  |                   |               |                    |
| 果実酒                                       | 80,000円       | —                  |                   |               |                    |

(注) 税率欄の( ) 書きは、その税率が適用されるアルコール度数を示している。  
\*1 アルコール分10度未満  
\*2 アルコール分10度未満で発泡性を有するもの

アルコール分1度1リットル当りの酒税額比較



酒類課税数量、酒税課税額に占めるビール・発泡酒の構成比 (平成18年度)



# 私たちは、ビール酒税の大幅な減税を要望します。

ビールは、現在わが国において、全酒類消費量の約4割を占める低アルコール飲料として広く消費者層に愛飲されています。このようなビールに対し、永年にわたり極めて高率・高額な酒税が課せられてきており、消費者の負担は極めて高いものになっています。

平成18年5月の酒税改正において減税されましたが、極めて小額であり、依然として突出した税負担は解消されておりません。是非とも私たちの要望が実現いたしますよう、切にお願い申し上げます。

## I

ビール酒税は、国内の他の酒類にくらべ突出して高く不公平です。

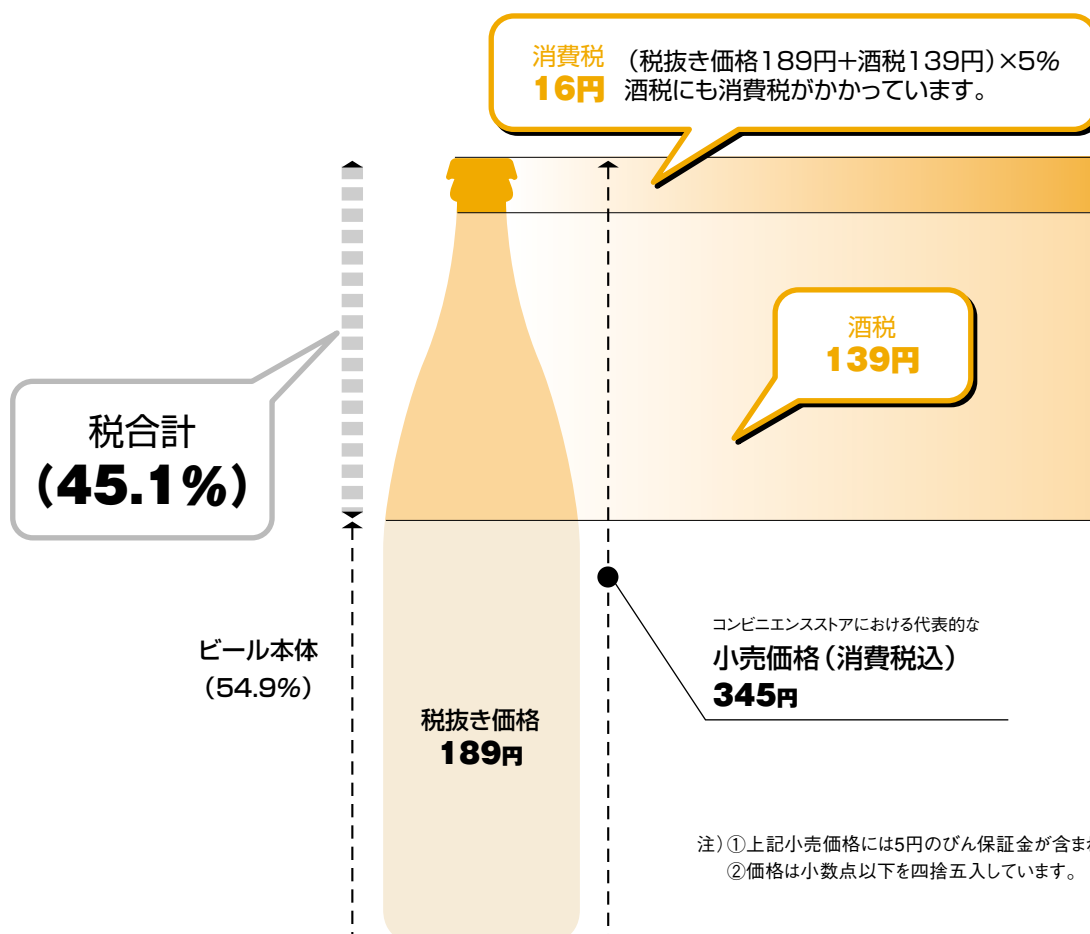
## II

日本におけるビール酒税は、諸外国と比較して極めて高くなっています。

(ドイツの15倍、アメリカの11倍)

醸造酒であるビールに対し蒸留酒より高い酒税を課しているのは、主要諸国では日本だけです。

### ビール大びん(633ml) 1本当りの税負担



## 国内の他の酒類との比較

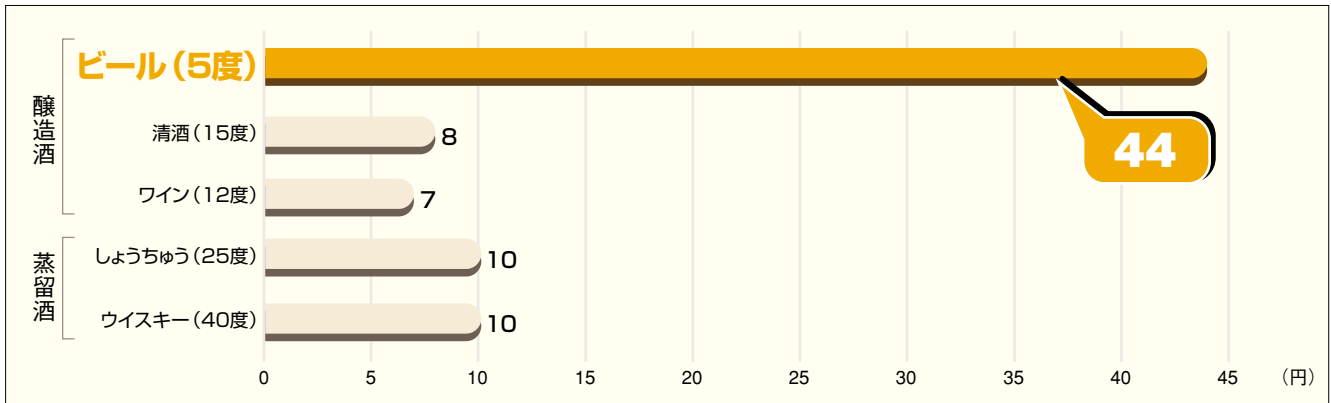
ビール酒税は、国内の他の酒類と比較して極めて高く不公平です。

1

アルコール分1度1リットル当りの酒税額を比較すると酒類間の不公平が明白であり、ビールは蒸留酒の4倍以上と群を抜いて高額です。

(参照:図1)

図1 アルコール分1度1リットル当りの酒税額比較

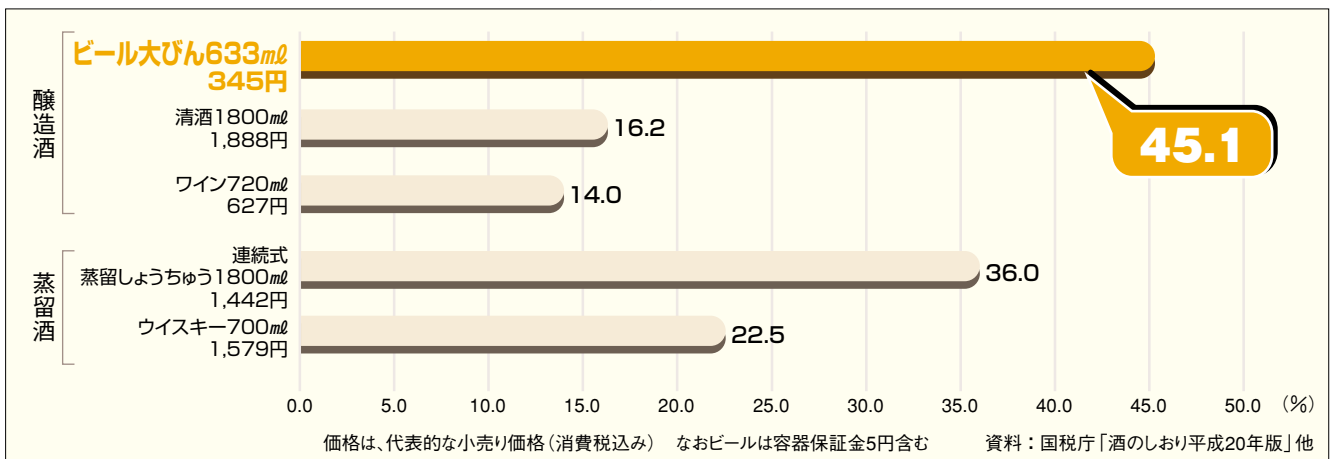


2

ビールの酒税と消費税合計の負担は45.1%に達し、醸造酒間あるいは蒸留酒との比較においても突出した状態にあります。

(参照:図2)

図2 小売価格に占める酒税及び消費税の合計の負担率



## 諸外国との比較

日本のビールの酒税額は国際的に比較して極めて突出しています。

※ちなみに、ドイツの15倍、アメリカの11倍となっています。

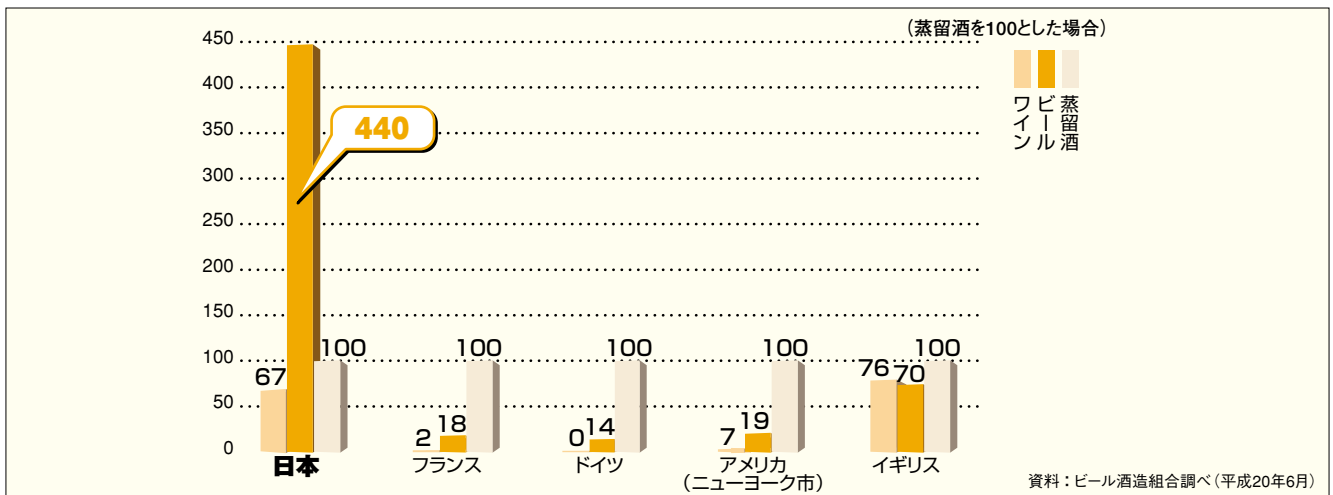
1

醸造酒であるビールに対して、アルコール分1度当りで、蒸留酒に比べ高い酒税を課しているのは、主要諸国の中で日本だけです。

※欧米ではおおむね、蒸留酒には高い税率、醸造酒であるビールやワインには低い税率が標準となっています。

(参照:図1)

図1 主要諸国におけるアルコール分1度当りの酒税額指数

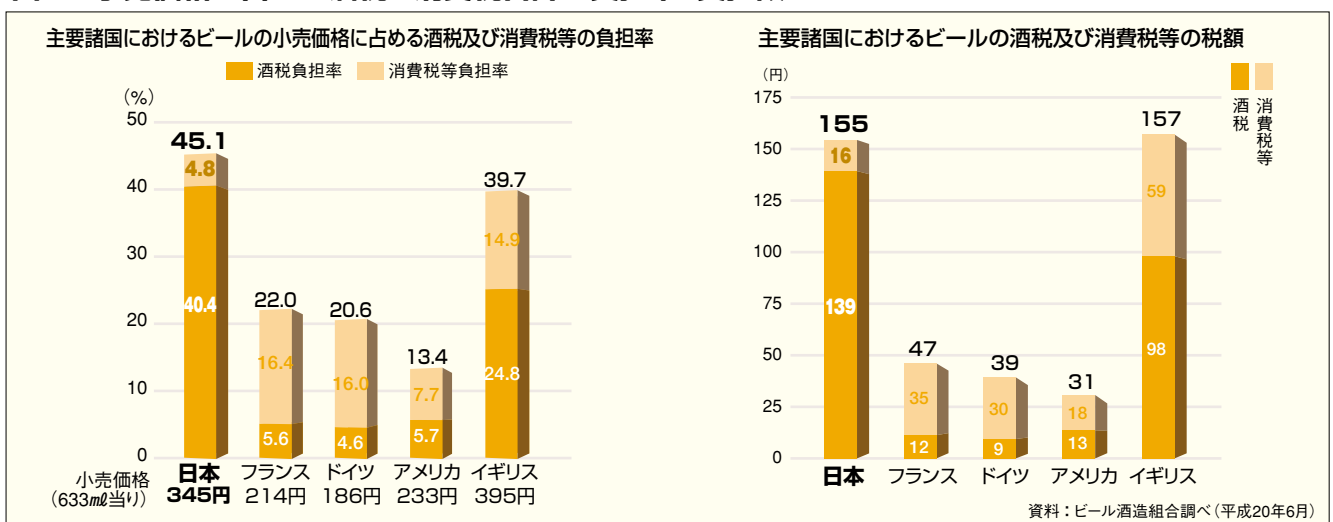


2

また、日本のビールの小売価格に占める酒税と消費税合計の負担は、国際的に見ても、非常に高率かつ高額です。

(参照:図2)

図2 小売価格に占める酒税と消費税合計の負担率・負担額



注) ①金額(酒税額、消費税等額、小売価格)は633ml当りの円で示す。

②邦貨換算は、1ユーロ168.07円、1ドル106.42円、1ポンド212.35円(平成20年6月末時点のTTMLレートによる)。

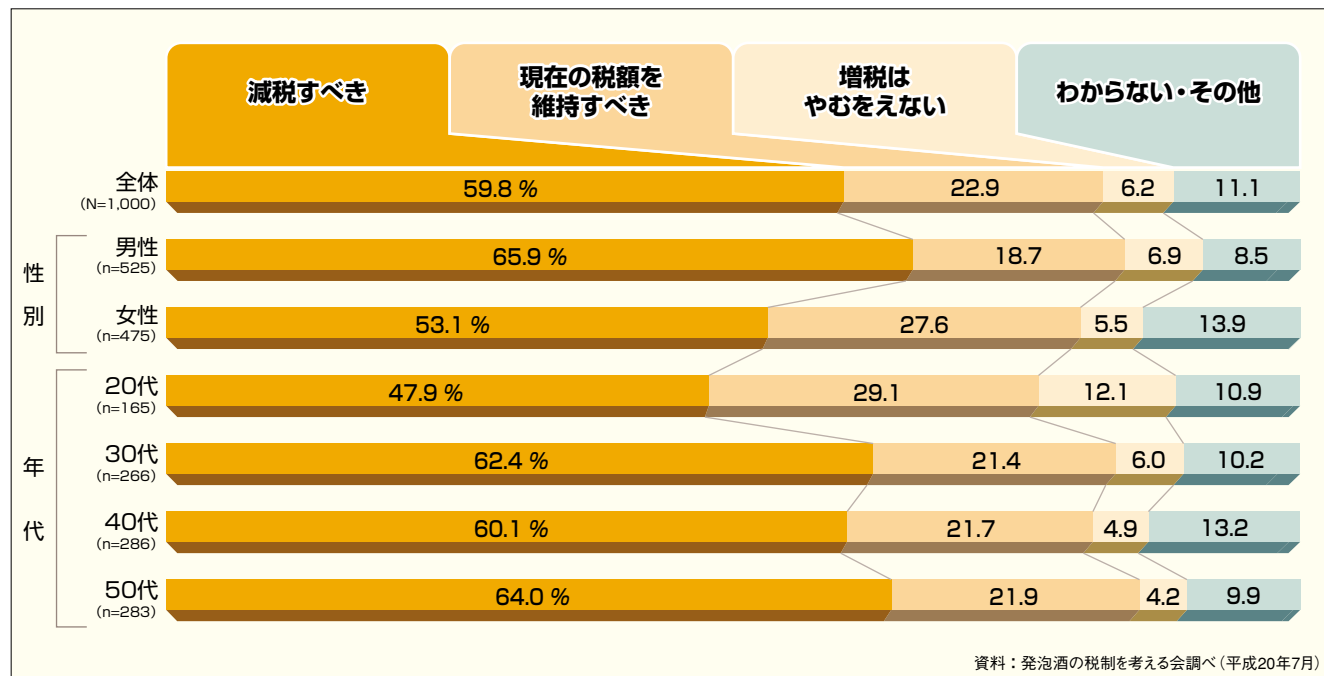
③消費税は、日本では消費税、欧州諸国では付加価値税、アメリカでは小売売上税を示す。

④アメリカはニューヨーク市での調査

# 消費者の皆様の声

調査によると、60%の人が減税すべきと考えています。

## 将来「ビール」の税金はどうあるべきだと考えるか



（女性・専業主婦・51歳）

**海** 外に比べて高すぎるので減額してほしい。庶民のささやかな楽しみであることや、明日への活力源となるものなので、税金を減らしてほしい。

（男性・自営業・54歳）

**ビ**ールはもっとも大衆的なアルコール飲料です。私たちの生活に密着しているビールに重税を課すことは税負担の公平さにも反しています。

（女性・専業主婦・36歳）

**ビ**ールにかかる税金があまりにも高いのには、驚いた。税金も大切だが、国民の楽しみも必要だと思うので、これ以上の増税は絶対に反対だし、できれば減税してほしいと思う。

（女性・パート・アルバイト・53歳）

**ビ**ールやアルコールを飲むことは一日働いた後の庶民のささやかな贅沢だと思われる。この物価高の家計の苦しい中でやりくりして飲んでいるのにさらなる増税などはありません。

（女性・専業主婦・35歳）

**今**まで気にせず飲んでたビールですが酒税がこんなにも取られていたことを知ってショックでした。これ以上税金が値上がりしたら、酒量を減らすことも考えないといけないと思います。

（女性・専業主婦・23歳）

**ビ**ールの税金が思っていたよりも多くてビックリしました。私は、毎日頑張って、リラックスしたいときや、楽しい時間を過ごしたい時などにビールを飲むのですが、ほぼ半分が酒税で、なおかつ消費税も払っているなんて、これではまったくリラックスもできないし楽しい時間も過ごせません。消費者の負担をもっと軽くしてもらいたいです。

（女性・会社員・43歳）

**ビ**ールは毎日の楽しみである人が多いのだから、少しでも税金を安くしてほしい。

# 私たちは、発泡酒酒税の減税を要望します。

発泡酒は、誕生以来、今日に至るまで製造各社のたゆまぬ企業努力により、品質も向上し、庶民の酒として広く愛飲されていますが、発泡酒の酒税は他の酒類に比べ著しく高率・高額であり、極めて不公平です。平成18年5月の酒税改正において、私たちは発泡酒減税を強く要望いたしましたが、実現には至っておりません。平成21年度の税制改正にあたりましては、是非とも私たちの要望が実現いたしますよう、切にお願い申し上げます。

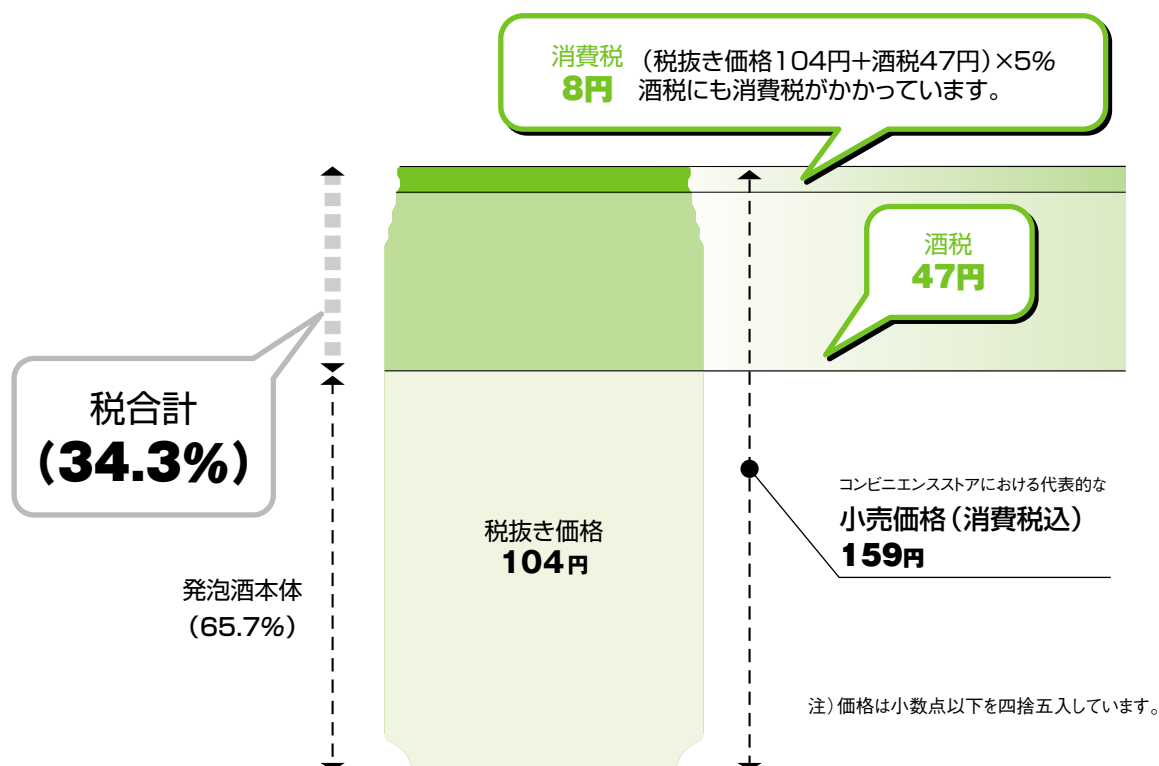
## I

発泡酒の酒税は、国内の他の酒類と比較して極めて高く、不公平なものとなっています。

## II

発泡酒は主として家庭で愛飲され、またビールでは難しい多様な商品の開発により、独立したジャンルとして消費者の支持を受けています。

### 発泡酒350ml缶当りの税負担



## 国内の他の酒類との比較

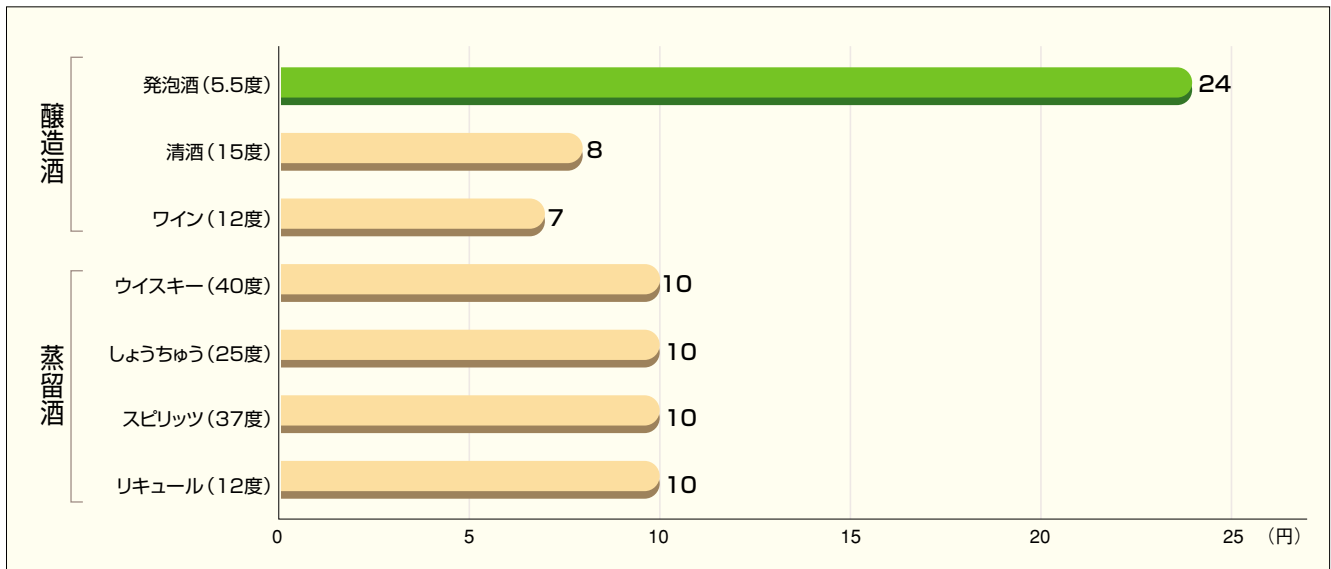
発泡酒の酒税は、国内の他の酒類と比較して極めて高く、不公平なものとなっています。

1

平成18年改正においても減税は行なわれず不公平は解消されませんでした。  
また、アルコール1度1リットル当りの酒税額を比較すると、醸造酒である発泡酒は蒸留酒の2倍以上と群を抜いて高額です。

(参照:図1)

図1 アルコール分1度1リットル当りの酒税額比較

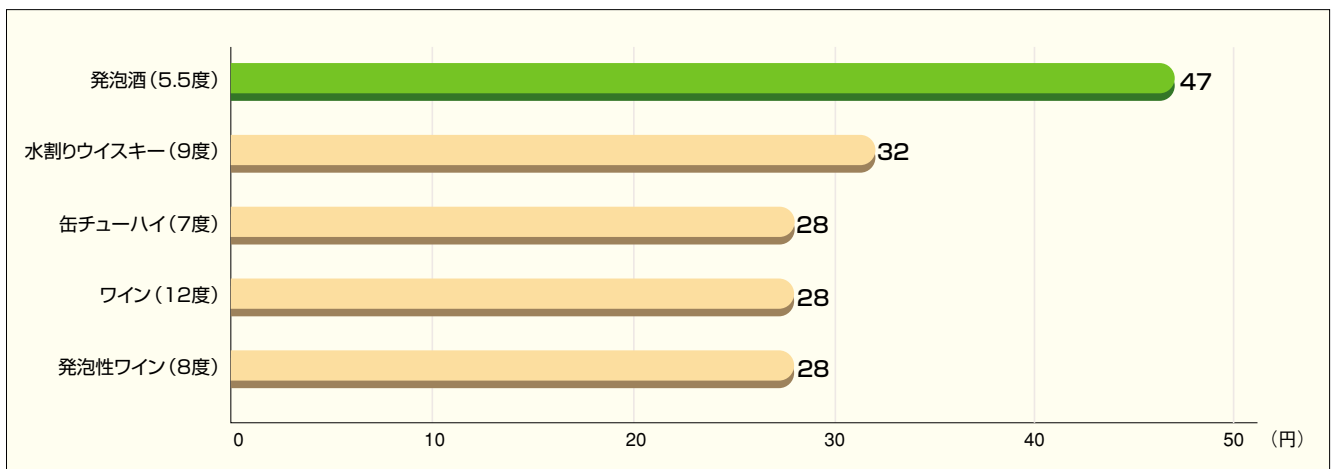


2

350ml当りの酒税額を比較しても、発泡酒の酒税額は約47円であり、やはり他の低アルコール酒類に比べて高額です。

(参照:図2)

図2 350ml当りの酒税比較



## 発泡酒は独立したジャンルの酒類

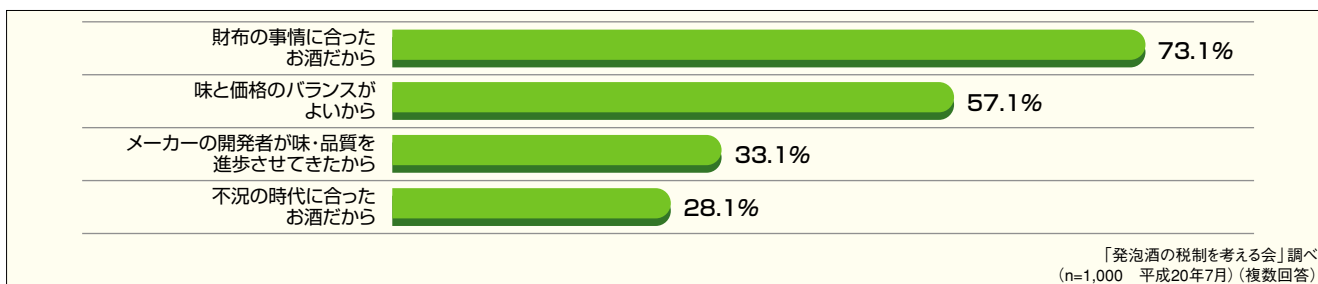
発泡酒は主として家庭で愛飲され、またビールでは難しい多様な商品の開発により、独立したジャンルとして消費者の支持を受けています。

1

発泡酒が消費者に受け入れられている主な理由は、「財布の事情に合ったお酒だから」「味と価格のバランスがよいから」「メーカーの開発者が味・品質を進歩させてきたから」です。

(参照:図1)

図1 発泡酒が消費者に受け入れられている理由(上位4位)

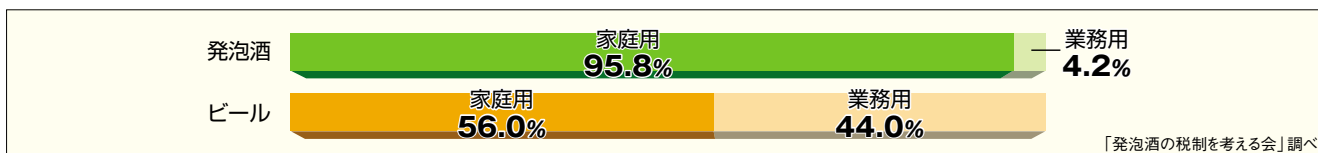


2

発泡酒は、平成6年に誕生し、今日に至るまでたゆまぬ研究開発、設備投資、マーケティング活動等、企業努力を行ってきた結果、品質も向上し、そのほとんどが家庭で愛飲されています。

(参照:図2)

図2 発泡酒・ビールの用途別飲用実態(平成19年 年間)



3

発泡酒はビールとは異なり、原料の自由度が高く、製造各社は創意工夫して新たな商品を提案しています。

(参照:図3)

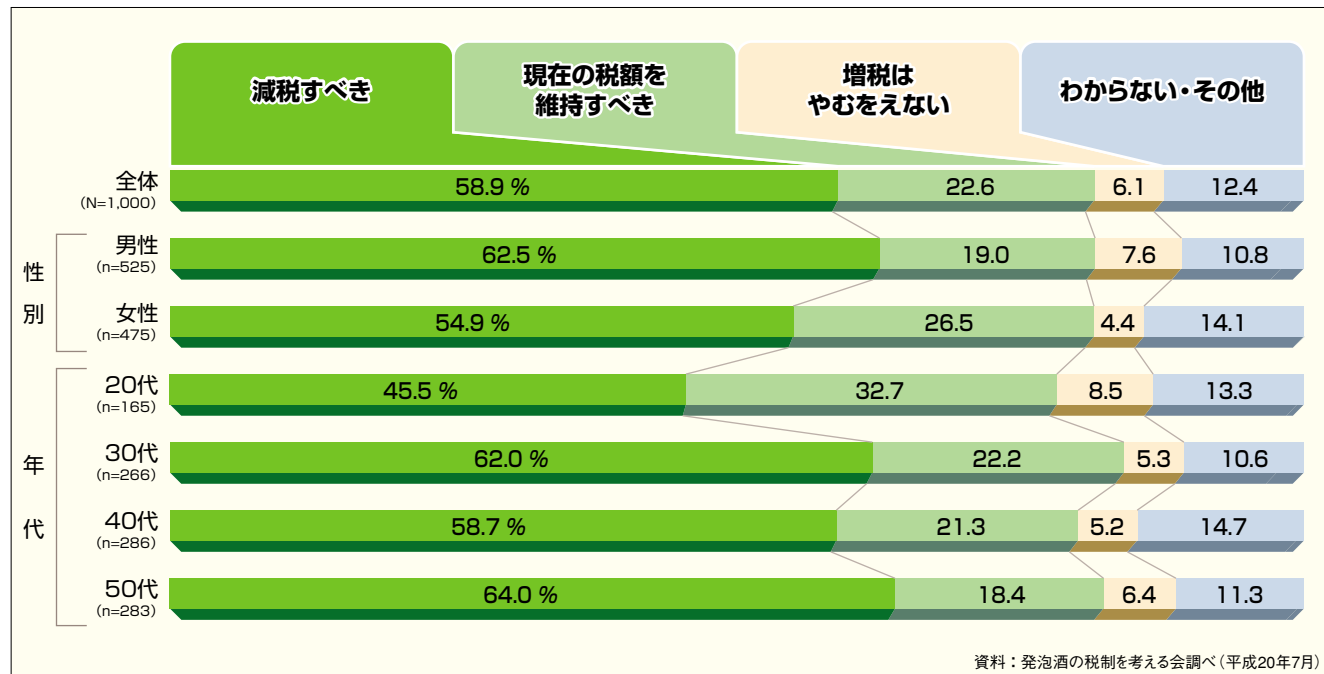
図3 製造各社の発泡酒開発の事例

|         | ブランド名        | 原料                                  | 特徴                                        |  | ブランド名      | 原料                                              | 特徴                              |  |
|---------|--------------|-------------------------------------|-------------------------------------------|--|------------|-------------------------------------------------|---------------------------------|--|
| ASAHI   | アサヒスタイルフリー   | 麦芽、ホップ、糖類、カラメル色素、酵母エキス、大豆ペプチド       | 糖質0(ゼロ)のきれいな味。さっぱりとした後味を楽しめる発泡酒。          |  | MD ゴールドドライ | 麦芽、ホップ、大麦、糖化スターチ                                | 発泡酒のドライで培った技術で度数を6%としドライとコクを両立。 |  |
|         | アサヒ本生 アクアブルー | 麦芽、ホップ、大麦、大麦エキス、スターチ、糖類、酵母エキス、海藻エキス | 心地よいコクとスッキリした後味、爽快なおいしさを楽しめる糖質50%オフの発泡酒。  |  | ダイエット<生>   | 麦芽、ホップ、大麦、糖類、酸味料、クエン酸K、甘味料(アセスルファムK、スクラロース)、苦味料 | カロリー50%カット・糖質70%カット・プリン体70%カット。 |  |
| DAIICHI | 淡麗 グリーンラベル   | 麦芽、ホップ、大麦、糖類                        | 糖質70%オフ(当社比)で爽快なうま味の発泡酒。                  |  | 麦職人        | 麦芽、ホップ、大麦、米、コーン、スターチ、糖類                         | スッキリとした飲みやすさと豊かな飲みごたえが特長の発泡酒。   |  |
|         | 麒麟ゼロ         | 麦芽、ホップ、糖類、大豆たんぱく、酵母エキス              | カロリーオフと糖質ゼロ(栄養表示基準による)を同時に実現。19kcal/100ml |  | 南国物語       | 麦芽、ホップ、大麦、スターチ、糖類、大豆ペプチド                        | 厳選素材の旨みと爽やかなノドごしが特長の糖質60%オフ発泡酒。 |  |
| SAPPORO | 北海道生搾り みかぎ麦  | 麦芽、ホップ、大麦、糖類                        | 大麦をみがき、おいしいところだけを残し旨みを搾りだしました。            |  |            |                                                 |                                 |  |
|         | サッポロピバラライフ   | 麦芽、ホップ、糖類、スピリッツ、エンドウたんぱく、カラメル色素、甘味料 | 糖質ゼロとアルコール5%を両立。気にせず飲めて、しっかりしたうまさ。        |  |            |                                                 |                                 |  |

# 消費者の皆様の声

調査によると、59%の人が減税すべきと考えています。

## 将来「発泡酒」の税金はどうあるべきだと考えるか



（男性・会社員・41歳）

**酒** 税と消費税の二重取りになっているのを何とかしてほしい

（男性・会社員・41歳）

**企** 業努力で安くても満足できるものを開発したのを、売れているからといって税金をかけるのは許せない。

（女性・会社員・48歳）

**こ** こまでおいしくなるように研究を重ねてきた企業の努力にもう少し報いて買いやすくしてほしい。

（男性・学生・21歳）

**発** 泡酒など売れ行きがよかった途端に企業の努力を無視して増税をしたことが信じられない。減税すべきだと思う。

（男性・会社員・45歳）

**酒** 税が下がれば価格も下がるし需要も伸びるはずだし、上げれば逆に需要は減っていくことを考えてほしい。

（女性・会社員・40歳）

**安** くておいしいお酒を」という市場ニーズと企業努力から生まれた商品を台無しにしていると思う。

（男性・公務員・47歳）

**ビ** ールより安い税金とは知っていましたが、思いのほか高くて驚きました。もっと安くすべきです。

（女性・専業主婦・28歳）

**少** しでも安くお酒を飲みたいと思い発泡酒に替えたのに、発泡酒まで増税されるとお財布がキツイ。

（女性・専業主婦・37歳）

**こ** の景気低迷の世の中、割安感のある発泡酒は価格の安さで助かっている。もう少し減税してもらい、安くしてほしい。

# 私たちは、消費税の税率見直し時には、ビール・発泡酒の総合的な税負担の軽減を要望します。

平成19年12月、与党税制改正大綱の中で、「平成21年度における基礎年金国庫負担割合の2分の1への引上げに要する財源を始め、持続可能な社会保障制度とするために安定した財源を確保する必要がある。(中略) その際、新たな国民負担はすべて国民に還元するとの原則に立って、経済動向等に左右されにくい消費税をこれらの費用を賄う主要な財源として位置付けた上で、社会保障財源を充実することを検討する。」と述べています。

さらに、平成20年6月27日に閣議決定された「経済財政改革の基本方針2008」(骨太の方針)においても「消費税を含む税体系の抜本的な改革について、早期に実現を図る。その際、平成16年年金改正法、[基本方針2006] 及び[基本方針2007] や平成20年度与党税制改正大綱の[基本的考え方] 等を踏まえる。」とされています。

ビール・発泡酒には、過去の度重なる増税により極めて高率・高額な酒税が課せられ、これに消費税が併課されています。

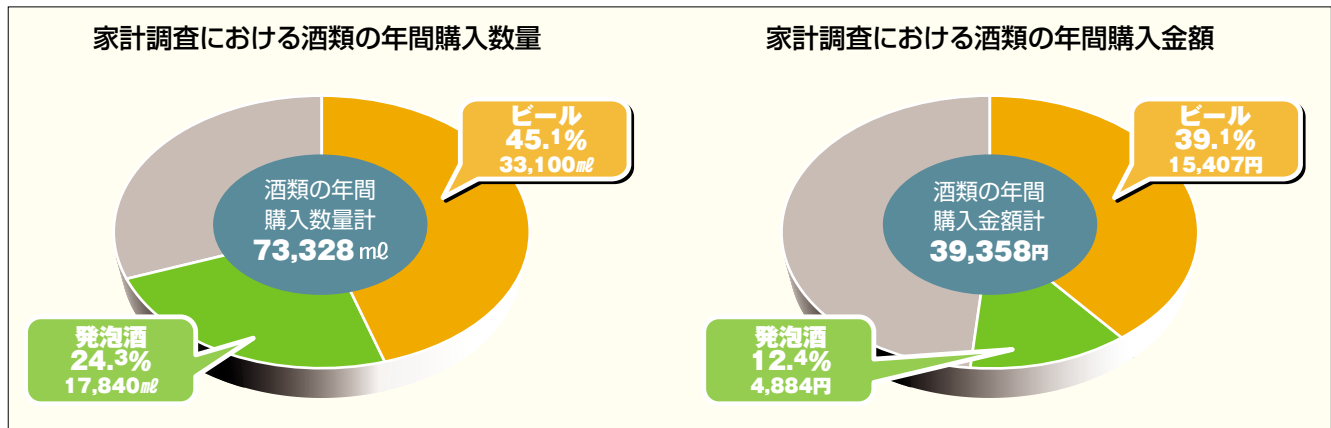
今後、仮に消費税率の引上げを行う場合には、ビール・発泡酒の酒税の大幅な減税を行うことにより、消費者の総合的な税負担を軽減する措置を講じるよう強く要望いたします。

1

低アルコール飲料であるビール・発泡酒は、生活に密着した大衆飲料として広く愛飲され、家庭内で消費される酒類の約7割を占めております。

(参照:図1)

図1 家庭内で消費されるビール・発泡酒の数量・金額



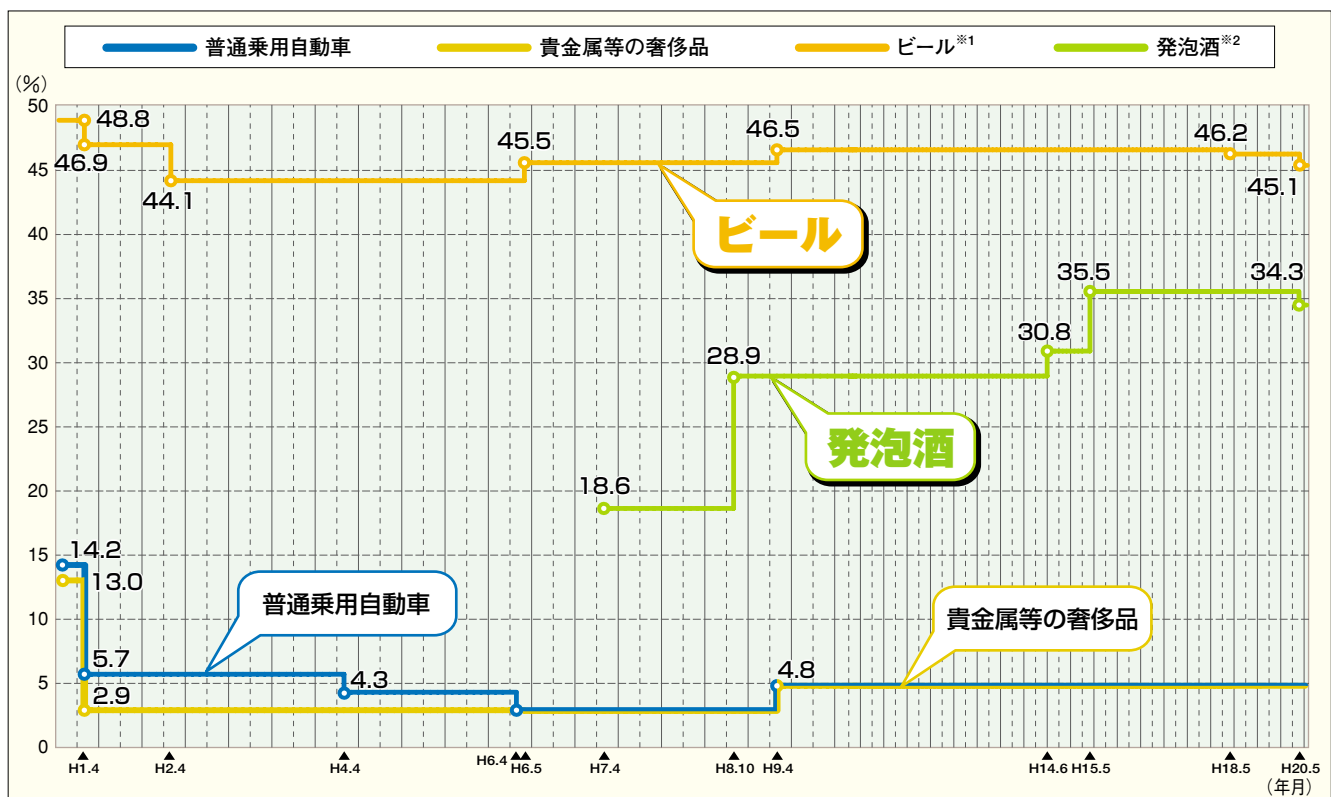
資料：総務省統計局「平成19年家計調査年報」における二人以上の世帯、全世帯平均

2

ビール・発泡酒の税負担は他の商品(含サービス)にくらべ極めて突出しています。

(参照:図2)

図2 小売価格に占める税負担率(一般消費税と個別消費税の合計)の推移



※1 ビールは大びん(633ml)の代表的小売価格に占める比率  
 ※2 発泡酒は缶(350ml)の代表的小売価格に占める比率  
 麦芽比率25%未満の商品の数値



ビール大びんの45.1%※は税金です。

※コンビニエンスストアにおける代表的な小売価格（345円）に定める酒税及び消費税の比率。

高いと思う、ビールの税金。  
**ビール酒造組合**

飲酒は20歳を過ぎてから。

# 3缶飲んだら



# 1缶税金。

安いと思っていた発泡酒も34.3%<sup>※</sup>が税金です。

※コンビニエンスストアにおける350ml缶の代表的な小売価格(159円)に定める酒税及び消費税の比率。

高いと思う、発泡酒の税金。

**発泡酒の税制を考える会**

飲酒は20歳を過ぎてから。

# ビール酒造組合

ホームページ <http://www.brewers.or.jp>

# 発泡酒の税制を考える会

ホームページ <http://www.happoshu.com>